

1. 単元名 「日詩を綴ろう!～自分の思いひを詠む～」

**文学を愉しむ子ども**  
**～子どもの自発性を促すために必要な国語的空間の設定～**

2. 単元設定の理由

(1) 単元について

本学級の児童は、1学期に「物語ラビリンスに挑戦」という単元を行った。この単元では、主体的実践力を発揮できる空間を設定し児童が楽しみながら学習を進めることを目指した。表現のしくみを活かしつつ自分たちでやりたいことを「選択して学習をする」ことにより、児童は自分の好きなことに取り組むことができ、自ら文学と向き合うことができていた。

本単元では、大きく二つの活動を行う。一つは(i 常時活動)として、毎日詩を書く活動(日詩)を行い、自分の詩を発表する空間(語りの空間)を設定する。もう一つの(ii 通常授業)では、「国語的プログラム」を活用しつつ、日々の詩を捉え直したり、練り直したりする活動を行う。以上のような二つの活動を通して単元を進めていく。

(i 常時活動)では、毎日詩を書き、それを蓄積していくことを行いつつ、自分の詩を発表する空間を設定する。通常詩を書くことは数回しか行わないことも多いが、毎日の日記を書くことと同様に日々詩を書き綴ることにより、書き方が洗練されたり、日々の日常の見方が変わったりと様々な効果がある。そこで、日詩をモジュールの時間を活かして行っていく。

一方で自らの思いを的確に表現することは難しい。そこで、(ii 通常授業)では、「国語的プログラム」などを活用して想像を膨らませやすくなるための手立てを用意していく。例えば普段みている景色も「色」に着目してみると違った見方ができ、表現も変わっていく。このような活動を通して、自分の表現の幅を広げていくようにする。

日詩や国語的プログラムを活用することにより、表現の幅を広げ、言葉で表現することのよさを感じてもらいたいと考えている。また、この日詩は、個人の学びの蓄積であり、それをふりかえることで、自分のそのときに思っていたことを見直すことができる。最初から自分がどれだけ伸びたか、日々努力することの大切さ、なども感じられる。

本単元では、二つの活動を行うが、これは国語的空間の設定にも役立つ。日詩を行うことにより、①学びの蓄積をふりかえることができる空間を作成することができる。また、国語的プログラムを活用することにより、③自分で選択できる空間(自己決定権がある空間)や④言葉によって、ものの見方や捉え方が変容する空間を設定することもできると考えられる。

日詩を書く活動を通して、日々蓄積した財産を基に、自分との違いや他者が書いた詩への思いなどを感じ、言葉を綴ることの意味・価値を捉え直したり、練り直したりすることが可能となる。

(2) 単元の目標

学習指導要領の資質・能力		そうぞう的实践力が発揮される姿
学びに向かう力・人間性 等	これまでの学び(表現のしくみなど)や詩を書き続ける経験を活かして、言葉で表現するよさを感じることができる。	自分の考えや他者の意見を通して、言葉(詩)に対して多角的に捉え、自身の言葉(詩)の新たな意味・価値を見出すことができる。
思考・判断・表現 等	詩を読んで、感じたことや考えたことを他者と共有し、それぞれに感じ方や書き方の工夫などに違いがあることを気づく。(読む) 相手や目的を意識して、感じたことや想像したことなどを詩で書き、集めた材料(自身の書いた詩など)を比較する活動を通して、明確にしようとしている。(書く)	
知識・技能	反復や例え、色や情景など表現の工夫に気づくことができる。	

(3) 活動構成の仮説

**仮説** 毎日詩を書いてさまざまな詩を読み書きする・国語的プログラムを行う、等の国語的空間を設定することにより、よりよい詩の見方・考え方を追究ができ、そうぞう的实践力を発揮することができる。

本単元では、毎日詩を書く活動と国語的プログラムを活用した活動を行う。このような国語的空間を設定することにより、児童はさまざまな方法を獲得し、選択することができるようになる。児童が主体的に関わるための選択の幅が広がることで主体的実践力を発揮し、よりよい詩を見方・考え方を追究することにより、そうぞう的实践力を発揮することができる。

### 3. 単元計画 全10時間 (時間8/10時間)

学習活動と子どもの意識の流れ	教師の働きかけ	評価			
<p><b>学習の流れをつかむ</b></p> <p>「自分の思った詩を書く」 (1時間)</p> <p>詩を書くのは苦手だな。 短くまとめてみると、書きやすいな。</p> <p>「日詩と語り」(常時活動)</p>	<p>○学習の見通しを持つ。</p> <p>自分の思ったことを毎日綴っていくことをたしかめさせる。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度]</p>	<p>[思考力・判断力・表現力、等]</p>	<p>[知識・技能]</p>	<p>[そうぞうの実践力]</p>
<p>国語的プログラムを行う。(3時間)</p> <p>○3つのプログラムを行う。</p> <p>「色の連想をして書く」 「想像旅行を試みる」 「クラスタを利用して物語をかく」</p> <p>プログラムを使った詩の交流会をする。(3時間)</p> <p>○プログラムや友だちの詩をみて、思ったことや感じたことを交流する。</p> <p>色を使って書いてみると、想像が広がるな。 想像してみるといろいろ書けるな。 想像旅行をしてから、クラスタをしてみるといいな。</p> <p>国語的プログラムを行い、友達の作品と見比べて感じたことを交流する。(1/2時間) 本時</p> <p>色や音数を調べてみると詩をかきやすくなるよ。 青色の言葉もたくさんあるな。 ○○さんの詩はいつも比べて書いているよね。</p>	<p>○国語的プログラムを行い、そのあと書いてみたことを交流して、プログラムのよさを実感させる。</p> <p>○毎日の詩を掲示し、学級のほかの子がどんなことを書いてみるかを確認できるようにする。</p> <p>○詩の交流会では、プログラムをやってみた感想や、毎日書いている詩で気づいたことを交流させる。</p> <p>○友達の書いた詩のよさを交流する時間もとるようにする。</p> <p>○今までにやったプログラムや友達の書いた詩を読んでみるなど、自分のしたいことを確認させる。</p> <p>○上記の選んだことをやってみて、気づいたことや、どうすればよい詩が書けるかを交流する。</p>	<p>○詩を書き続ける経験を活かして、言葉で表現するよさを感じることができる。</p> <p>○表現のしくみを活かして表現することのよさを感じることができる。</p>	<p>○詩を読んで、感じたことや考えたことを他者と共有し、それぞれに感じ方や書き方の工夫などに違いがあることに気づくことができる。(読む)</p> <p>○相手や目的を意識して、感じたことや想像したことなどを詩で書き、集めた材料(自身の書いた詩など)を比較する活動を通して、そのよさを明確にしようとしている。(書く)</p>	<p>○反復や例え、色や情景など、表現の工夫に気づくことができる。</p>	<p>○自分の考えや他者の意見を通して、言葉(詩)に対して多角的に捉え、自身の言葉(詩)の新たな意味・価値を見出すことができる。</p>
<p>「自分の思ひを詠む」! (1時間)</p> <p>○○さんのアドバイスを活かして、「季語」をたくさん入れてみたいな。 自分の五感を大切に、書きたいな。</p>	<p>○今までの学習したこと(国語的プログラムや表現のしくみ)を活かして、詩で自分の思いや考えを綴る。</p> <p>○単元を通して学習したことや感想をまとめさせていく。</p>				

言語活動

「日詩を綴ろう!」自分の思ひを詠む!